

## I 令和2年度教育課程届第1表 より

### (1) 教育課程編成の基本方針

飛躍的な技術革新により様々な仕事の日々自動化され、子どもたちが社会に出る数年～10年後にどんな職業が残っていて、あるいはどんな新たな職種が存在するようになるのか、見通すことが困難であるといわれている。それに加え、情報の氾濫・貧困・紛争・人権侵害などの課題が国内外に山積している。

これからの時代を生きる子どもたちに身に付けさせるべきは、「これから世の中がどうなるか」といたずらに不安になるのではなく、「どんな世の中であろうと自分がどう生きるか。どんな世の中を作るのか。」と前を向いて考える姿勢と、考えたことを実現させる力である。

今年度から完全実施となる新学習指導要領の理念は「社会に開かれた教育課程」という言葉で表されている。それは、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、子どもたちに未来の創り手となる資質・能力を育む。」ことであるとする。私たちは今こそ、この理念を正しく理解し、子どもたちに未来を生き、未来を創る力を身に付けさせていかなければならない。

教育活動の具体的な改善に当たっても、新学習指導要領において明示された、①子どもたちに育成すべき資質・能力 ②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のあり方 ③①を育むための、社会と連携・協働したカリキュラム・マネジメントの実現 の3点を確実に踏まえ推進するとともに、コミュニティ・スクールの機能を最大限に生かし、保護者・地域と思いを一つにすることで、教育活動の質を一層高めることができるようにする。

本校においては、引き続き『強く、やさしい、子どもを育てる』を教育理念に掲げる。

「強さ」の具体的な内容は、学力、体力、流されない強い心と実行力であり、「やさしさ」は、自他を大切に作る心と行動力である。課題を乗り越えたくましく生きるための強さ、世のため、人のために動けるやさしさの基礎を身に付けさせることを目指し、日々の教育活動推進にあたって、常にこの教育理念を念頭に置くこととする。

各種の学力調査やアンケートによれば、本校児童の学力定着状況は、一定の成果は上がっているものの、十分な定着とは言えない。また、気立てがよく、優しい子どもたちであるが、課題に立ち向かう強さや、協調・協働して自ら課題を解決しようとする意欲・能力は、さらに向上させていかなければならない。

これらの実態を踏まえ、義務教育9年間の出口を見据えた上で、児童一人一人をきめ細かく見取り、一学年一学年の学習内容を確実に定着させ次年度に引き継ぐことを最大の責任として職務にあたる。そのために、児童の学習意欲を喚起し主体的な学習を促す授業を展開し、学習内容に対する確実な知識・技能の定着を図るとともに、思考・判断・表現の力を身に付けさせる。また、他者と関わる活動を充実させ、協力して課題を解決する経験をできるだけ多く積み重ねることなども通して、学びに向かう力や豊かな人間性を育んでいく。

### (2) 教育目標

#### ○ すすんで学ぶ

自ら課題を設定し、その課題解決のために、身に付けてきた知識や技能をもとに、思考・判断・表現する力を身に付けさせる。また、その過程で、他者と協働し、よりよく、より深く考えようとする姿勢を育む。

#### ○ 心豊かに

自他を大切に作る心と行動力を定着させるとともに、正しいこと・善いこと・美しいことを追求しようとする態度を育む。

#### ○ たくましく

十分な体力はもちろんのこと、負荷にくじけたり悪しきに流されたりしない強い心も育む。

### (3) 目標を達成するための基本方針

「ねらいは何？」 「つなぐ」 「つながる」  
「出会う」 「まぜる」 「ななめ」  
(R020221 校区教育協働委員会における校長資料より)

- ア あらゆる人や物との「出会い」を生む教育活動の展開、環境づくりを推進する。他者と関わることにより、多様性に触れ、認め合い支え合う力を身に付けさせる。また、多様なもの、事象に主体的に関わろうとする態度を育む。これらの達成のために、校区教育協働委員会や学校支援地域本部の力を最大限に活かす。
- イ 新学習指導要領の理念を正しく理解し、深い学びの達成のため、主体的・対話的な学びの実現を目指す。  
そのために、教師自らの主体性を発揮し、カリキュラムマネジメントを推進するとともに、日々の授業改善に努め、指導力向上を図る。**重点を、「児童の〇〇したい。という意欲を引き出す授業の創造とし、学校一丸となってめざす。** また、「考えたことを表現する。表現することで考える。」ことを引き続き大切にし、思考・判断・表現力を向上させ、基礎学力の定着・伸長を図る。
- ウ 「強くやさしい 京陽の子 15のやくそく」および「京陽小のきまり」をもとに、全校で一致して、学習規律・生活規律の定着徹底を図る。また、確かな人権感覚を身に付けさせ、児童自らいじめのない学校や社会を作ろうとする意識を育む。
- エ 温かくきめ細かい指導と 学びの場に相応しい落ち着いた学校環境作りにより、認められ大切にされる、安心安全な学校を作る。**そのために、たてわり班による活動や学年内の授業交換などをさらに推進し、一人一人の児童を多くの目で見とり、指導することができるようにする。**

## II 現在（令和2年度始め）の状況より

- 感染症の猛威により、現在学校は臨時休業を余儀なくされている。いずれ学校が再開をしても、感染防止対策の継続、在宅学習（在宅勤務）を含めたイレギュラーな形での授業実施が長期に及ぶであろうことは、想像に難くない。「例年通り」が通用することは、まずない。  
そのことを改めて自覚して、今後の職務に、主体的に臨むことを何より大切にしたい。
- どのような状況にあっても、学校のミッションは、「学習保障」と「人間性の涵養」である。  
これまでと違った環境でも、状況でも、そのミッションは変わらない。不自由な中でも、私たち一人一人が創造性を発揮して、「できること」を最大限に行うことに全力を尽くす。
- 私たちの誰もが、未だ嘗て経験したことのない状況の中、今後長期間にわたって、「初めて」の対応が続く。「初めての対応」には、対応策を考える過程で、多くの困難・・・「産みの苦しみ」が伴うであろう。けれども、同時に、求められる対応策に「正解はない」とも言える。試行錯誤しながら、ベストでなく、ベターを創る。その誠実さは、子どもに・保護者に必ず伝わると信じて、進みたい。
- スタッフ一人一人の力を集めて、チームワークで乗り切る、よりよいものの創造をめざしたい。初めてのことに對しても、柔軟な発想が次々に浮かぶメンバーもいるが、得意でない人もいる。緻密に条件を整えるのが得意な人もいる。ひとそれぞれの強みと弱みがある。  
対面でのコミュニケーションの制限もあるが、工夫しながら、平時にも増してコミュニケーションを密にし、それぞれの強みを終結させ、チームで、質の高い課題解決を図ることをめざす。  
「仕事は人間関係です。」「目標設定は高く。“低き”に合わせない。」「平均値を高める。」

### III I、IIを達成するための、行動目標

**Think Globally**

**理念 や ねらい を明確にする**

**Act Locally**

**具体的な手段 を確実に講じる**

- II-1 教育活動、指導行動のねらいを明確にする。(Think Globally)  
☆「あたり前」を疑う。 目的と手段の取り違いはないか。  
☆令和元年度卒業式や今年度の入学式のあり方からも、学んだことがたくさんある。  
☆本当に価値あることを、精選して行う。
- II-2 ねらいを達成するために、豊かな活動を仕組む。(Act Locally)  
☆教材研究に裏打ちされた授業実践（家庭学習の提供）  
☆「〇〇塾」、ドリームジョブ、オリパラ学習、地域への貢献、
- II-3 ねらいに向かった具体的な取り組みは、組織的・継続的・徹底的に行う。  
☆学年力を高める。 (Act Locally)  
☆スタッフのコミュニケーションで、平均値を高める。
- II-4 ねらいに向かった具体的な取り組みは、評価検証し、改善する。(Act Locally)  
☆学習（授業）の評価 ☆分掌校務の評価 ☆マイナーチェンジを！
- II-5 新学習指導要領の理念を、確実に理解し、実践する。(Think Globally) (Act Locally)  
☆「身に付けさせるべき資質・能力」とは？ 「見方・考え方を働かせる」とは？  
☆「何を知っているか」ではなく、『何ができるか』へ。  
☆「生活科・理科」を切り口にする。
- II-6 個に応じた指導力（特別支援の視点）を高める。(Act Locally)  
☆様々な個性・特性をもった児童を、学級や授業へ適応させることが求められている。  
☆言葉を磨く ☆よいこと・素敵なことを発信する（保護者は不安でいっぱい）  
☆児童を「認める」言葉を増やす。  
☆平時に増して、家庭の状況への配慮を丁寧に行う。
- II-7 あらゆる人と連携する。(Act Locally)  
☆専門職との連携 ☆外部人材との連携 ☆保護者との連携 ☆地域との連携  
☆困難な時だからこそ、「助けてもらう」「助ける」
- II-8 対話する。対話の場を仕掛ける。(Act Locally)  
☆ひょうたんからコマ  
☆スタッフのコミュニケーションで、平均値を高める。(再掲)
- II-9 児童に求めることは、まず教師自身が「そのようにする」。(Act Locally)  
☆教育課程編成の基本方針にある言葉は、そのまま私たちに向けられている。  
・・・これからの時代を生きる子どもたちに身に付けさせるべきは、「困難に遭っても、  
どんな世の中であろうと、自分がどう生きるか。どんな世の中を作るのか。」と前を向  
いて考える姿勢と、考えたことを実現させる力である。
- II-10 明るく元気に、児童に・他者に向き合う。(Act Locally)  
☆そのために最善な働き方をめざす。  
☆今こそ、笑門来福の気持ちで！「明るい一言」の大きな力！